

# RETAILER ACADEMY NEWS

Jun 2017 | Bentley Motors Japan

BESPOKE

## Mullinerが「鷹狩」仕様のベンティガを発表



ベントレーのビスポーク部門であるMullinerはこのほど、中東地域でポピュラーなスポーツである「鷹狩」で使用する用具とそれらを収納するボックスなどを備えたベンティガ Falconry by Mullinerを発表しました。現代の日本では鷹狩は決して身近なアクティビティとは言えないため、この仕様をお求めになるお客様は少ないかもしれませんが、Mullinerの技術力の高さと、さまざまなテーマに対応して商品化できる可能性をあらためて示しています。

### 天然コルクのトリムで仕上げた2つのマスターユニット

このベンティガのラゲッジルームには、天然コルクのトリムで仕上げた2つの独立したユニットが搭載され、これらはマスターフライトステーションおよびリフレッシュケースとして使用できます。2つ

のユニットは可動式トレイに固定でき、アクセスは容易。マスターフライトユニット内には、ファルコンの紋章が描かれたピアノブラック仕上げの引き出しがあり、鷹狩というユニークなスポーツに必要な用具がすべて収納されています。

その下には、鳥の追跡用GPSユニット、双眼鏡、手作業で仕上げた革製の鳥の目隠しと長手袋を個別に収納するコンパートメントがあり、Hotspurのハイドをレーザーエンボス加工しています。これらは全て追加オプションとして設定されています。リフレッシュケースには、3つの金属製フラスコと耐久性のあるカップ、ブランケット、リフレッシュ用のフェイスクロスが入っています。

2つの独立したパーチ（止まり木）も天然コルクで仕上げられ、ラゲッジルームのサイドに設けられたスロットに収納可能。ラゲッジフロアとリアシルのプロテクションカバー（いずれもコルク製）は、

巧妙にベンティガのリアに組み込まれています。これらを車内のパーチと組み合わせて使用することで、鳥を日陰で快適に休ませることが可能となります。

### 芸術的なフェイスパネルの細工

インテリアはトリムにHotspurを採用。センターアームレストには取外し可能な輸送用パーチとテザーを設けました。そしてフェイスパネルには、砂漠を背景に急上昇するハヤブサが描かれています。これは世界中から集めた430個のウッドピースを使用して、9日間かけて製作したものです。Mullinerが得意とするビスポークの1つでもあります。

### Mulliner Director Geoff Dowding氏

ベンティガ Falconry by Mullinerは、Mullinerの職人の技術でどんなことができるかを示すショーケースです。彼らは、あらゆるライフスタイルや趣味を完璧なものにするため、エレガントで絶妙な特注のソリューションを提案できます。





## 第2世代に入ったスーパーシリーズ McLaren 720S

**今** 年3月7日、マクラーレンはジュネーブ・モーターショーの会場で、ニューモデルのマクラーレン720Sを発表しました。そして翌3月8日には東京でも同車の発表会を実施。マクラーレンの日本市場に対する期待度の高さを感じさせました。マクラーレン720Sは同社の中核をなすスーパーシリーズの最新モデルで、マクラーレン650Sの後継となります。マクラーレンMP4-12Cとその改良モデルである650Sがスーパーシリーズの第1世代であったのに対して、今回の720Sでは第2世代にフルモデルチェンジされたのが最大の特徴。同社が製品ファミリーを更新するのは今回が初めてであり、今後登場するスーパーシリーズのベースとなるべき重要なモデルといえます。

### アーキテクチャー

1993年のマクラーレンF1以来、同社はすべてのロードカーにカーボンファイバー製シャシーを採用しています。第1世代では「モノセル」と呼ばれる一体成形構造のカーボンファイバー製バスタブシャシーに、アルミ製のサブフレームを前後に取り付ける構造を採用していました。第2世代となる720Sのアーキテクチャーは、基部となるカーボンファイバー製の「タブ」と上部構造の「モノケージII」により構成されます。軽量かつ強度と剛性に優れた新アーキテクチャーにより、乾燥重量はこのカテゴリーでは驚異的な1,283kgにとどまっています。



新世代のカーボンファイバー製シャシー「モノケージII」。従来に比べて車内スペースも拡大しています。

### エクステリア

720Sのエクステリアには、マクラーレンのデザイン言語でもあるエアロダイナミクスへのこだわりが存分に現れています。デザイン面における特徴のひとつが、ミッドシップスポーツカーでは常識的なサイドのラジエーターインテークが廃止されたこと。マクラーレンではディヘドラル・ドア内にエンジン冷却用のエアトンネルを設ける独自の設計を実施。これまでにない美しいサイドビューを実現しています。



エアフローの最適化により、ディヘドラル・ドア上部の凹部からエンジン冷却用のエアを取り入れている



ディヘドラル・ドアは、ガラスルーフを兼ねたルーフ部と一緒に開く構造に変更。狭い駐車スペースでの駐車も容易になりました。

### インテリア

ドライバー重視のインターフェイスが特徴的なインテリアは、上質なレザーとアルミニウム製のスイッチなどにより、従来型に比べて高級感を大幅に向上させました。走行シーンに合わせて選択できる折りたたみ式ドライバーディスプレイと縦型のインフォテインメント・スクリーンが、新世代モデルにふさわしい革新性を強調しています。



ドライバー重視型のレイアウトが特徴的なインテリア。上質なレザーを多用して豪華な印象になりました。



サーキット走行などでドライビングに集中できるよう、限られた情報だけを表示させる折りたたみ式のドライバーディスプレイを採用。

### パフォーマンス

新設計の4.0リッターV8ツインターボエンジンは、従来の3.8リッターエンジンから41%の部品が変更されています。最高出力は720PS、最大トルクは770Nmを発揮し、従来の650Sに比べてそれぞれ70PS/92Nmアップの大幅な性能アップを実現。これにより、0-100km/h加速は2.9秒、最高速度は341 km/hという、世界第一級のパフォーマンスを発揮します。



新開発のV8ツインターボエンジンは効率にも優れ、複合サイクルでの燃費は10.7L/100km（約9.3km/L）。CO2排出量も249g/kmに抑えられています。

また、足回りには新世代のアクティブ・シャシー・システムである「プロアクティブ・シャシー・コントロールII」を装備。走行モードの選択に加えて、トラクションコントロールのレベル調整も可能になりました。これにより、ドリフト走行も楽しめるようになっています。

### 価格

マクラーレン 720Sにはスタンダード、パフォーマンス、ラグジュアリーという3種類のスペックが用意され、さまざまなオプション・パックも用意されます。車両価格は33,383,000円（税込）からとなっており、7月からデリバリーが開始される予定です。



## COMPETITORS INFORMATION



ニューモデル	ランドローバー・ディスカバリー	
発表・発売日	2017年5月8日 受注開始	
概要	・ リモート操作でシート・アレンジができる機能を世界初採用 ・ ボディの85%にアルミニウムを使用し、最大360kg軽量化 ・ 車高を自動的に下げて乗降を容易にする機能を設定	
車両価格 (税込)	ディスカバリー HSE (ガソリンエンジン): 7,790,000円 ディスカバリー HSE (ディーゼルエンジン): 7,990,000円 ディスカバリー HSE LUXURY (ガソリンエンジン): 8,810,000円 ディスカバリー HSE LUXURY (ディーゼルエンジン): 9,010,000円	
デリバリー 開始時期	—	



特別仕様車	メルセデスAMG G63 50th Anniversary Edition	
発表・発売日	2017年5月10日 発売	
概要	・ AMG 設立 50 周年を記念した特別仕様車。限定 50 台 ・ 通常設定のないブルーの特別外装色を採用 ・ 4色のインテリアのうち3色は特別仕様車限定	
車両価格 (税込)	メルセデスAMG G 63 50th Anniversary Edition: 22,200,000円	
デリバリー 開始時期	—	



ニューモデル	アストンマーティン・ヴァンキッシュ S	
発表・発売日	2017年4月24日 発表	
概要	・ 最高出力588psの6L V12エンジンを搭載 ・ 0-100km/h加速3.5秒、最高速度323km/h ・ エアロダイナミクスに焦点を置いた新たなエクステリアデザイン	
車両価格 (税込)	ヴァンキッシュ S クーペ:	34,579,982円
	ヴァンキッシュ S ヴォランテ:	36,911,983円
デリバリー 開始時期	2017年5月以降	



ニューモデル	ポルシェ・パナメーラ S E-ハイブリッド エグゼクティブ	
発表・発売日	2017年4月19日 予約受注開始	
概要	・ プラグインハイブリッドモデルが初めてフラッグシップに ・ 4L V8 エンジンと電気モーターでシステム合計出力680ps ・ 通常モデルより150mm長いホイールベース	
車両価格 (税込)	パナメーラ ターボS E-ハイブリッド エグゼクティブ: 30,440,000円	
デリバリー 開始時期	—	



特別仕様車	アルファロメオ 4C/4C Spider 107th Edition	
発表・発売日	2017年5月1日～6月30日の期間限定受注	
概要	・ アルファロメオ創業107周年を記念した特別仕様車 ・ 国内未導入のカーボン製パーツなどの内外装オプションを特別装備 ・ FCAジャパンの現行モデルで唯一1,000万円を超えるモデル	
車両価格 (税込)	アルファロメオ 4C 107thエディション:	10,700,000円
	アルファロメオ 4Cスパイダー 107thエディション:	10,700,000円
デリバリー 開始時期	—	



マイナーチェンジ	BMW M3 / BMW M4	
発表・発売日	2017年5月9日 発売	
概要	・ 内外装のデザインを変更 ・ サーキットでの走行性能を高めたM3コンペティション/M4コンペティションを追加 ・ 世界限定車BMW M4 CSを全国60台限定で導入	
車両価格 (税込)	BMW M3:	11,850,000円
	BMW M3 Competition:	12,560,000円
	BMW M4:	11,570,000円 (MT) /12,080,000円 (M DCT)
	BMW M4 Competition:	12,790,000円
	BMW M4 CS:	15,980,000円
デリバリー 開始時期	—	

## AWARD



### 新卒者が選ぶトップエンプロイヤーに選出 英国全体でも2番目の高評価

ベントレー モーターズはこのほど、「新卒者が選ぶベストエンプロイヤー (School Leavers' Award)」を受賞しました。同賞ではベントレーの研修プログラムが4部門でトップとなり、英国全体の企業でも2番目という高評価を得ました。自動車メーカーとしては最上位です。

ベントレーは「仕事の満足度 (Job Satisfaction)」 「中規模の新卒採用数 (Medium-Sized School-Leaver Intake)」 「最高の研修 (Best Apprenticeship)」 「最高の雇用主 (Top Employer)」 の4部門で最

高評価を得ました。また、自動車メーカーとしては、「ハイレベルの研修 (Higher Apprenticeship)」 「企業文化 (Company Culture)」 のカテゴリでも賞賛されています。

この賞は、英国の100団体で働く研修中の新卒従業員を対象に、スキル向上、キャリア形成とトレーニング、企業文化などについて調査を行ったものです。回答者には、ベントレーでこれらの研修を受けている新卒従業員も含まれています。



#### ベントレー モーターズ取締役 (人事担当) Marlies Rogait 氏のコメント

ベントレーは次世代を担う才能豊かな従業員を惹きつけ、鼓舞し、発展させることに全力を尽くしています。そして今回の受賞は、私たちの研修プログラムをリードするスタッフのコミットメントと専門的な知識を賞賛するものです。





# ロンドンにある ベントレーゆかりの地

ベントレー モーターズは1919年、ロンドンにて産声をあげました。  
100年近い歴史を持つため、ロンドン市内にはベントレーゆかりの地が点在しています。  
今回はロンドンのどこにベントレーゆかりの地が存在するか、マップ上で紹介します。  
出張などでロンドンを訪れる際には、気になるゆかりの地に足を伸ばしてみたいはいかがでしょうか？

## ① Pankhurst London Barbershop パンクハースト ロンドン

男性のラグジュアリー ライフスタイル ブランドのパンクハーストが、2013年に理髪店をオープン。その際、ベントレーはビスポークで理髪店用のチェアを6脚製作しました。ヘアカットだけでなく、ひげ剃りやスカルプマッサージ、フェイスマッサージなどのメニューも揃えています。

ADDRESS | 10 Newburgh Street, London, W1F 7RN

<http://www.pankhurstlondon.com>



## ② The Savoy ザ・サヴォイ

ザ・サヴォイは1889年創業の高級ホテル。これまで王家や世界の指導者たち、舞台や映画で活躍するスターたちに愛されてきました。ベントレーは、1920年代からル・マンの祝勝会をこのホテルで開催。1927年の祝勝会では、3リッターを会場に入れるために一部を解体して持ち込みました。もちろん2003年のル・マン優勝時もここで祝勝会を行っています。

ADDRESS | Strand, London

<http://www.fairmont.com/savoy-london/>



## ③ Bentley Studio ベントレー スタジオ

ロンドンの高級ショッピングセンター「ウェストフィールド・ロンドン」のザ・ヴィレッジ内にオープンしたベントレーのパーソナライゼーションスタジオ。クルー本社のクラフトマンシップと幅広いオプションを新たな顧客層に提案しています。最新のベントレーを見たり試乗できたりするほか、ベントレーコレクションの商品がディスプレイされ、実際に購入することもできます。

ADDRESS | Ariel Way, Shepherds Bush, London

<https://uk.westfield.com/london>



## ④ Mosimann's モシマンズ

ウィリアム王子とキャサリン妃がプライベートで食事することもあるという会員制クラブ。料理に関しては「Passion for Excellence」がモットーで高い評価を得ています。プライベートダイニングの1つに「ベントレールーム」があり、ビスポークのレザーチェア、1950年代のレースカーをモチーフにした最上級の素材を使ったウッドパネルなどの美しさが光ります。

ADDRESS | 5 Wiliam Blake House, Bridge Lane, London

<http://www.mosimann.com/mosimanns-club/private-dining/bentley>



## ⑤ Morton's モートンズ

もともとは1823年に財務大臣のために建てられた建物で、その後バーやレストラン、ナイトクラブとして生まれ変わりました。1920年代には、ベントレー・ボーイズたちが足繁く通った店として知られています。ロンドンのナイトライフを堪能できるだけでなく、ベントレーの黎明期を支えたレジェンドたちが好んだ空間でもあるので、訪れる価値のある場所です。

ADDRESS | 28 Berkeley Square, Mayfair, London

<http://www.innerplace.co.uk/venue/?venueId=105679>



## ⑥ Jack Barclay ジャック・バークレー

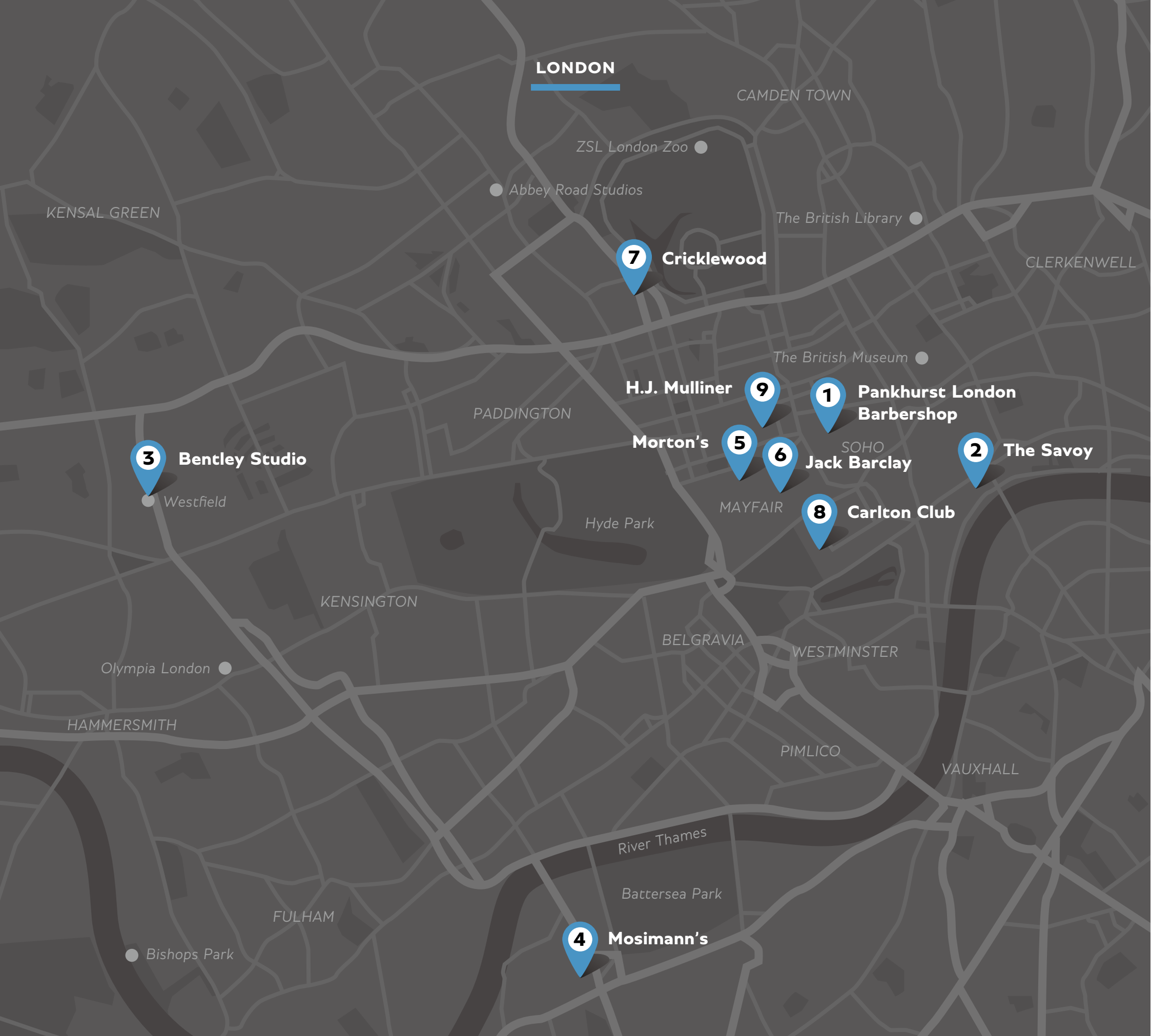
1927年からベントレーを販売するベントレー最古のディーラー。ショールームには新車と認定中古車が展示されているほか、W.O.ベントレーをはじめとする黎明期のレース活動の写真などが展示されています。一歩足を踏み入れれば、ベントレーの世界観に引き込まれることでしょう。店内装飾の参考になるかもしれませんので、ロンドンに行く機会があれば、1度は訪れておきたい場所です。

ADDRESS | 18 Berkeley Square, Mayfair, London

<http://www.jackbarclay.co.uk>







**7 Cricklewood**  
**ベントレー最初の工場 クリックルウッド工場**

ベントレーの最初の工場であるクリックルウッド工場は、現在のチャグフォードストリートNW1にありました。現在も歴史的な建造物が残っており、当時の雰囲気を感じることができます。3リッターのエンジンは、この場所で初めて始動し、1920年1月に道路試験が始まりました。生産が始まって納入されたのは1921年9月のことでした。

ADDRESS | Chagford Street NW1



**8 Carlton Club**  
**カールトンクラブ**

カールトンクラブは、議員などが党の組織やその効力を改善するために1832年に設立された伝統ある会員制クラブです。1930年にウルフ・バーナートがカンヌのホテルに滞在中、「特急列車ブルートレイン号がカンヌからカレーに到着する前にロンドンのクラブにいる」という賭けをしました。その「クラブ」こそ、カールトンクラブでした。なお、ボディカラーの「St. James' Red」は、このクラブの所在地「St. James's Street」にちなんでいます。

ADDRESS | 69 St. James's Street, London

<https://www.carltonclub.co.uk>



**9 H.J. Mulliner**  
**H.J. Mulliner 工場&ショールーム跡地**

現在のメイフェア地区にあるブルックストリートに、H.J. Mullinerの工場とショールームがありました。メイフェア地区は現在商業地区として発展を続けているため、Mullinerの工場とショールームの跡を探すのは難しいかもしれません。メイフェア地区にはピカデリーや英国紳士のスーツでおなじみのサヴィル・ロウがあるので、ついでにブルックストリートを散策するのもよいでしょう。

ADDRESS | Brook Street, Mayfair, London



## ミュルザンヌに セレニティ・グリル by Mullinerが登場

ベントレー モーターズはこのほど、ミュルザンヌ用のオプションとして「セレニティ・グリル by Mulliner」を発表しました。

標準仕様の縦横デザインのグリルに代わり、現代風で時代を超越するような商品をお客様に提供するために設計されたこのオプションは、お客様のミュルザンヌをより個性的なものにします。

このグリルはダブルキルトのパターンをアッパーセンターグリルとロワーセンターグリルに配し、クローム仕上げとダークティント仕上げを用意。ダークティント仕上げはミュルザンヌ Speed 専用で、クローム仕上げはミュルザンヌ、ミュルザンヌ Speed、ミュルザンヌ EWB(日本未導入)で選択することができます。

詳細は後日、ベントレー モーターズ ジャパンよりご案内いたします。



標準仕様のグリルは縦横デザインの奥にマトリックスグリルを配しています。



アッパー&ロワーセンターグリルがダブルキルトのモチーフになるセレニティ・グリル by Mulliner。

## 欧州向け特別限定車 コンチネンタル24を発表

5月25日から5月28日にかけてドイツのニュルブルクリンクサーキットで行われたニュルブルクリンク24時間レースに、ベントレーがサポートするベントレー・チームATBの3台のコンチネンタルGT3が挑んだことを記念し、欧州向けの特別限定車「コンチネンタル24」が発表されました。

ベース車両は、最高出力710ps、最大トルク1017Nmを誇るコンチネンタルSupersports(日本未導入)。チームATBのマシンカラーリングを想起させるモナコイエロー&ブラッククリスタルの組み合わせのほか、セントジェームスレッド&ブラッククリスタルも用意しました。モノトーンも無償オプションとして設定しています。エクステリアはカーボンファイバードアミラーカバーやブラックプレーキキャリパー、クロームパーツのブラック化などが標準仕様となっています。



## CULTURE

## ユニオンジャックの成り立ち

英国、つまりグレートブリテン及び北アイルランド連合王国の国旗として知られているユニオンジャック。ユニオンフラッグとも呼ばれる王室旗です。ベントレーと同じ英国ブランドのMINIでは、ユニオンフラッグをドアミラーカバーやルーフにあしらうオプションがあります。カーブランド以外でも広くデザインに取り入れられているため、日本でも身近な存在です。街なかで見かけた方も少なくないことでしょう。

世界中によく知られているこのユニオンフラッグには、英国の成り立ちを示す歴史が込められています。

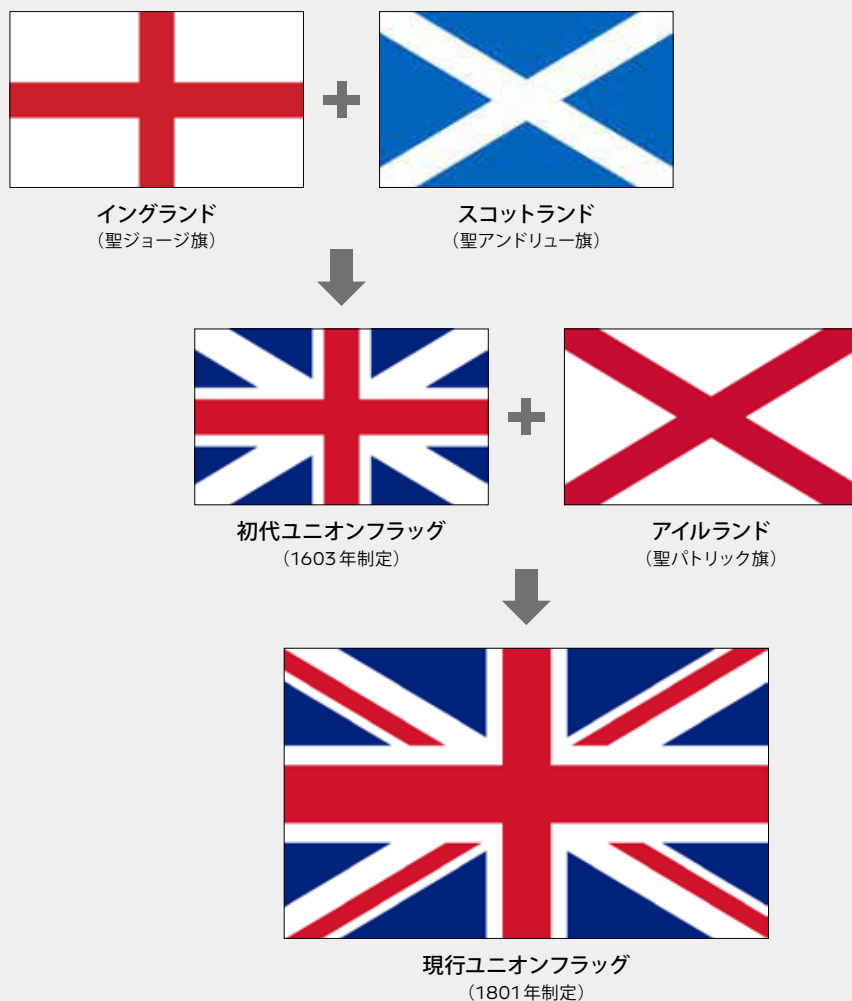
まず、1603年にスコットランド王のジェームズ6世が、イングランド王ジェームズ1世として即位した「同君連合」のとき、イングランド国旗(聖ジョージ旗)とスコットランド国旗(聖アンドリュース旗)を組み合わせた初代ユニオンフラッグが誕生。イングランドとスコットランドが1707年に同一国家となり成立したグレートブリテン王国は、1801年にアイルランド王国と合同。新たにグレートブリテン及びアイルランド連合王国が成立しました。この際にアイルランド国旗(聖パトリック旗)をユニオンフラッグに組み合わせ、現在のユニオンフラッグが完成したのです。

なお、スコットランド国旗の青地はブルーですが、ユニオンフラッグではダークブルーになっています。また、スコットランド国旗の白いクロスとアイルランド国旗の赤いクロスが重なり合わないよう、赤いクロスが反時計回り方向に若干ずらしてあります。これにより、ユニオンフラッグは上下左右で非対称となり、表裏の区別があります。



ベントレーでもユニオンフラッグのモチーフは特別仕様車などのデザインに採用されてきました。(写真はミュルザンヌ 1st エディション)

### ■ ユニオンジャックの図説





# 自動運転の今

日本政府は、平成28年5月に発表した「官民ITS構想・ロードマップ2016」において、2020年までに高速道路における自動走行と地域限定で無人自動走行移動サービスの実現を目指すことを明らかにしました。テスラ・モデルSや日産・セレナ、スバル・インプレッサ、メルセデス・ベンツEクラスなど、一部自動運転に相当する機能を導入したモデルも次々に登場しています。今回の基礎知識では、自動運転の定義を改めて確認し、自動運転技術の今を理解しておきましょう。



## 自動運転の定義

日本における自動運転は、表に示したようにレベル1～4の4段階に定義されています。これはアメリカ国家道路交通安全局（NHTSA）の定めに準拠したのですが、これとは別にオイルの粘度指数などで馴染みのあるアメリカ自動車技術会（SAE）が定めた5段階の区分けもあり、EUは後者のレベル設定を採用しています。アメリカ国内で2種類のレベル設定があることから、行政と現場のコンセンサスが取れていないことが伺えますが、現在NHTSAがSAEの基準を導入する方向で話が進んでおり、追って日本も5段階（一切の支援の無い状態を0として全6段階）に移行するものと思われます。現状、日本では4段階の区分けを採用していますから、今回はそれを基準に話を進めていきます。ちなみにNHTSAとSAEの違いは、NHTSAのレベル3をいざという時のドライバーの関わり具合によって2段階に分けているだけで、決定的な差はありません。

分類		概要	責任関係等	実現するためのシステム	
情報提供型		ドライバーへの注意喚起等	ドライバー責任	「安全運転支援システム」	
自動制御活用型	レベル1：単独型	加速・操舵・制動のいずれかの操作をシステムが行う	ドライバー責任	「安全運転支援システム」	
	レベル2：システムの複合化	加速・操舵・制動のうち複数の操作を一度にシステムが行う	ドライバー責任	「準自動走行システム」	「自動走行システム」
	レベル3：システムの高度化	加速・操舵・制動すべてをシステムが行い、システムが要請したときのみドライバーが対応する	システム責任（自動走行モード中）		
	レベル4：完全自動走行	加速・操舵・制動すべてをシステムが行い、ドライバーがまったく関与しない	システム責任	「完全自動走行システム」	

LEVEL 0	主制御系統（加速・操舵・制動）すべてをドライバーが行う状態。ドライバーに警告を行うだけのシステムもこれに含まれます。
LEVEL 1	加速・操舵・制動のいずれかをシステムが行う状態。現在実用化されているものでは、前方の障害物を検知して自動的にブレーキをかける緊急自動ブレーキや、前走車との距離を一定に保つよう車速を調整するアダプティブクルーズコントロール（以下ACC）がレベル1に該当します。
LEVEL 2	加速・操舵・制動のうち複数の操作を同時にシステムが行う状態。現在実用化されているものでは、走行車線からの逸脱を防止する機能を組み合わせたACCや、ウインカー操作を合図に自動的に車線変更を行う機能がこれに該当します。
LEVEL 3 (SAE レベル3、4)	加速・操舵・制動のすべてをシステムが行うが、システムが要請したときにはドライバーが対応しなければならない状態。このレベルから状況を判断して次の行動を決定するAI（人工知能）の搭載が必要になります。SAEではこの状態をレベル3、要請にドライバーが対処しなかった場合にもシステムが運転を維持する状態をレベル4に位置付けています。（2020年市場化目標）
LEVEL 4 (SAE レベル5)	あらゆる状況下で加速・操舵・制動のすべてをシステムが行う完全自動運転。（2020～2025年市場化目標）

## 自動運転の現在

上でも少し触れていますが、現在日本で販売されている車両の自動運転システムはすべてレベル1と2です。

対象をレベル2に絞ると、テスラ・タイプSとメルセデス・ベンツEクラスが、車線維持機能付ACCとウインカーレバー操作によって自動的に車線変更を行う機能を装備。BMW5シリーズでも自動車線変更機能が実用化されていますが、日本仕様には設定されていません。

ボルボ・V90、ベントレー・ペンティガ、日産「プロパイロット」、スバル「アイサイト ver.3」では車線維持機能付ACCが実用化されています。

システムに目を向けると、ここに挙げた輸入車ではカメラとミリ波レーダー、超音波センサーで前走車の存在を把握し、距離を測定していますが、日産とスバルはカメラのみで検知。これにより200～300万円台の普及モデルにも搭載を可能にしています。車線を維持する方法もステアリングを直接アシストする方法とブレーキによって補正する方法に分かれますが、現在のところ両者に優劣はありません。

なお、「オートパイロット」、「オートレーンチェンジ」の名称でリリースしたテスラ・タイプSで、ドライバーがシステムを過信したことによる事故が発生。その影響もあって、他のメーカーではユーザーの誤解を招かないよう「自動運転」という名称の使用を控えています。また、法規制の絡みもあって、いずれもステアリングから手を放すとシステムが解除されるようになっています。

## ベントレーの自動運転

ベントレーの自動運転機能はペンティガで初めて実用化されました。

オプションのツーリングスペックに含まれる「アダプティブクルーズコントロール」と「レーンアシスト」、「トラフィックアシスト」がレベル2に該当します。

アダプティブクルーズコントロールを作動させて60km/h以上の速度で走行中にレーンアシスト機能をONにすると、前走車との距離を一定に保つよう加減速を調整しながら、走行車線を逸脱しそうになると電動パワーステアリングを使用して車両が車線を維持するよう補正します。

また、トラフィックアシストを有効にしておくと、混雑した状況下でも追走と車線逸脱防止機能を維持。渋滞路では、最大3km/hの速度で自動的に発進、停止を繰り返す自律走行が可能になります。

車両の斜め後方を走行する車両を検知し、その存在をドライバーに知らせるブラインドスポットワーニング機能が標準装備されていますから、それを組み合わせた自動車線変更機能もそう遠くなく実用化されるかもしれません。



ベントレーでも「自動運転」とは表記していませんが、すでにレベル2の機能が搭載されています。